

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	開所当時は、他の事業所のを掲げており、H17年度の外部評価の改善点でもありました。職員と共に作成した基本理念は、利用者、家族、地域を三本柱に図形にして分かりやすいものにしました。	
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	今年度は職員の退職や異動が多く、理念の共有化には難しいものがありました。入社当日にオリエンテーションを実施し、その中でホームの理念、運営基準等を指導しています。	○ 平成18年度に理念を作成しました。地域との取り組みや、利用者のニーズも少しずつ変化しています。現状にあった理念の作成を、職員と共に話し合っていくようにしています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入所される利用者、ご家族にはパンフレット等を中心に伝えていきます。地域には、年3～4回「JOYだより」を発行しています。ホーム見学をされる方には、廊下に掲示されているものを分かりやすく説明しています。	○ 地域の病院の相談室にも「JOYだより」を送付しています。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	運営推進会議を通じて町内の方とも顔馴染みになりましたので、道で会った時に声をかけて下さるようになりました。春には野菜の苗を届けて頂いたり、秋には大根、芋等を頂いています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の親睦旅行や清掃活動等積極的に参加しています。	○ まだ職員だけの交流になっていますので、利用者も参加出来る場を作りたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内会の親睦旅行に職員が参加し、幹事の手伝いやお身体の不自由な方のお世話をさせて頂いています。	○ 運営推進会議の中で車椅子の貸し出しや、町内に暮らしている独居の方の相談や支援の協力を、申し出ているが、まだ実行には至っていない。今後積極的に取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各ユニット会議で外部評価の意義、自己評価の目的等話し合っており、自己評価については、職員全体で書き込み、最終的に取り組み強化の部分を把握するよう努めている。	○	前回に比べ、改善点を意識する事に努めた。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	第6回まで実施している。日々の活動、現在取り組んでいる内容を報告している。各立場の参加者のご意見・評価を活用するように心掛けている。	○	町内にホーム(認知症)の理解が得られるようになり、地域の交流の機会は増えたが、議題にあげる取り組み内容を、今後どのようにしたら良いか悩んでいる。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	札幌市が主催する会議や研修には、積極的に参加している。困難な事例等があった場合には、直接担当者に相談し指導を受けている。	○	今後も継続していきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者、介護支援専門員は研修には参加し理解はしているが、必要な時に支援出来る体制は万全とはいえない。	○	必要な人がいたら各機関と連携を図り、その人らしい生活が送れる様に支援していきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修会には参加し、理解はできている。申し送りの時にカンファレンス等を実施し、ニュースや新聞等の情報を職員間で話す場を設けている。	○	全職員が研修を受け、防止関連法について、理解をし遵守に向けた取り組みを徹底していきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は重要事項説明を丁寧に行い、ホームで出来る事、出来ない事を明確に説明しています。利用者の状態変化により契約解除に際しては十分な説明と話し合いをしている。	○	今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や態度からその思いを察し、その時々で管理者、職員が個別に話し合いをする機会を作っている。	○	申し送りやカンファレンスの際に職員間で話し合いを行ない、利用者の不安や意見を共有化しているが、改善にまで至っていない。外出の頻度を増やすなど利用者の希望を叶えていきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりやエピソードをお話したり、写真を見せています。毎月の通信でもお知らせしています。心身の状況については、随時記録等を見て頂きながら説明しています。金銭管理は、毎月明細書、領収証等を送付しています。	○	身体の特変時は急ぎ知らせること。また、誕生会・行事等も事前に知らせる事を心掛けている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情口を設けています。日頃からご家族には何でも言って貰えるような、雰囲気作りに留意しています。出された意見や苦情に対しては、職員間で検討し直ぐに対応しています。	○	意見箱を玄関前に設けていますが、活用されている状態ではないので、対応策を検討していく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	総合施設長、管理者が定期的に職員の要望や意見を聞くように、心掛けて個別に面談を行っているが、把握していない可能性もある。	○	継続する様、努めていく。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況の変化により、勤務時間の変更等は事前に職員間で話し合いをして柔軟に対応している。管理者、介護支援専門員は状況に応じた対応が出来るように、通常のシフトに入っていない為、夜間の対応や緊急時等に対応出来る体制になっている。	○	継続していく。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動はあるものの、日頃から両ユニットに顔を見せているので、利用者様が馴染みの支援を継続して受けられるように配慮している。	○	職員との定期的面談を行い、職員の精神面・肉体面のフォローが出来る体制をつくっている。今後も継続していきたい。
5. 人材の育成と支援			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社外で開催される研修には、なるべく多くの職員が受講できる様にしている。管理者、介護支援専門員はそれぞれの分野の研修には、月1回は参加している。新人スタッフにはスーパーバイザーである本社の部長が研修している。それらの研修報告書は、全職員がいつでも見られるようにしている。	○	研修機会を確保する為には、職員と十分話し合いながら、年間計画の中で研修を位置づけていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	区内に連絡会があり、その中で研修や交流する機会を持っている。同業者とは電話等で情報交換をしたり、ホーム見学等をしている。	○	職員には他のグループホームの見学等が数多く出来るような機会を設けていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の疲労に気を配り、精神面・肉体面でリラックス出来るように、出張マッサージなど福利厚生面に配慮している。	○	他のグループホームとの交流や、親睦の場を作っていきたい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	頻回にホームに来ており、職員個々の努力は把握し評価している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族・ご本人より今日までの経過と今後の希望、困っている部分等を聞き出す努力を忘れず信頼をもって頂けるよう配慮している。	○	入所してしばらくは重点的にかかわり、コミュニケーションを図るようにしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の困っていることや不安な事を、時間をかけてゆっくり聞くようにしています。またホームとしてはどのような対応が出来るか、事前にリスクも含めた話し合いをしています。	○	ご家族同士の中でもご本人に対する思いや意見のくい違いがある為、その辺の気持ちを考慮しながら、信頼関係を築いていきたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学や入所を前提に相談を受けた時、現在ホームで出来ることを明確に説明するよう努めている。場合によっては他の事業所を紹介することもあります。	○	今後も継続していきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族にホームを見学して頂くことから始めています。ホームの雰囲気、職員や他の利用者の様子を見て頂き、安心して納得して貰えるようにしています。また管理者、介護支援専門員はご本人に面談に行ったり、ホームに来て頂いて、まず顔を覚えて頂くようにしています。	○	やむを得ず、直ぐ利用になった場合はご家族や各関係者から、情報の提供を多く頂くようにしています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人と共に一日一日を一緒に生活していく中で、共に助け合い生活を送っている。利用者様に出来る事を手伝って貰っている。(茶碗拭き、洗濯物たたみ、調理等)	○	今後も継続していきたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に、ご本人の日々の出来事や希望されている事、また職員が気付いた事柄をごまめに報告しています。ご家族の心配事や思いに対しては、真摯に受け止め、ゆとり時間をかけて話をするように心掛けています。	○	今後も継続していきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族、ご本人の思いや状況を判断しながら、外泊や外出で一緒に過ごす事を勧め、思い出作りをお願いしています。また行事等にご家族を誘ったりしながら、より密な関係づくりを働き掛けています。	○	ご家族が疎遠となっている場合の、働き掛けがまだ不十分です。具体的な対応策を検討していく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前住んでいたアパートや商店まで、散歩を兼ねて出かけたり、ご主人の命日に自宅に帰りお参りをされている利用者もいます。	○	馴染みの友人、知人がホームに遊びに来てくれる人は限られているが、継続的な交流が出来るよう働き掛けていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	認知の差でトラブルに発展することを防ぐ為、利用者同士の関係について職員間で情報を共有し、その日の体調や気分の波を把握して深く見守るよう努めている。	○	利用者が日々の共同生活の中で、お互いに理解し合い、仲間意識を深めるように支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された後も近況報告の電話を下さるご家族がいます。また季節の野菜を届けて下さるご家族もいます。	○	今後もご家族の相談に乗れるような関係づくりしていきます。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を使用して、利用者からの話や表情、行動から、生活の意向等を把握している。	○	センター方式では、職員が担当制を取っており、利用者との関わりを少しでも多くする事で、困難なケアにも対応出来るようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	契約前に見学に来た時に、ご本人や家族から話を聞いたり、生活の中を通じて暮らしの把握をしている。	○	入居前にセンター方式の用紙を説明のうえ渡し、十分な時間をもってご本人とご家族が、これまでの暮らしを振り返れるように実施している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護記録や気づきノート、申し送り等から職員が情報を共有して、気づいた事は直ぐに報告する事で対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式、ケアカンファレンス、モニタリングや面会時のご家族からの情報を取り入れ、介護計画を立てている。介護支援専門員はケアカンファレンスにおいて、利用者の課題について説明している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	目標期間終了時期ごとに、新たな介護計画を作成している。利用者の身体、精神症状が変化した時は、ケアカンファレンスを行い、見直しを行っている。緊急な見直しには、ご家族に電話をして話し合いをする事もある。	○	見直しや、新しい介護計画を作成する前にモニタリングを行っている。
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者別に介護記録を作成している。時間とケア内容の項目を記入し、並列してケア内容を書いている。	○	個別の介護記録を更に見やすく、職員との情報共有がとれるように、見直しをしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームの裏手に細長い畑があり、利用者の好みに応じて、野菜や花を育てている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会の人達がボランティアで踊りをしてくれたり、防火訓練の時には消防職員が立ち会ってくれている。徘徊時の協力を得る為に、警察への挨拶、運営推進会議でも、町内の人達や民生委員に協力の話をしている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	運営推進会議や研修等から、情報や意見交換している。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を2ヶ月に一度行って、互いに質問したり意見交換をしている。	○	運営推進会議では、地域包括支援センターのセンター長に参加してもらい、近隣のグループホームの活動状況や、最近の福祉情勢について、伝えてもらうようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者のご家族から、内科往診医に診てもらうか、他の病院の医師に診てもらうか選択してもらっている。内科往診医に携帯で24時間対応してくれる、訪問介護ステーションの看護師も健康管理や職員にケアのアドバイスもしてくれる。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神科病院には、いつでも受診出来る体制にある。精神科医は、詳しくご本人や家族に認知症の事を説明してくれる。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回訪問看護ステーションの看護師が、健康管理やケアの指示、往診医への情報提供を行なっている。	○	看護師は、気軽にケアの相談や支援内容について、話し合える体制にある。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	内科往診医の協力病院がある。病院の医療相談員や医師、ご家族と連絡を取りながら、早期退院の話し合いを行っている。	○	入院時には、利用者情報を送り、医療機関への情報支援を実施している。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用者の症状が悪化した場合や、そのような傾向にある時は、直接往診医やかかりつけ医師から、説明をしてもらうようにしている。	○	重度化や終末期は、ご本人やご家族が往診医と話し合える機会をつくる事で、対応していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	グループホームの福祉職員として「できり事、できない事」を、往診医やかかりつけの医師と話し合いの上で行っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49</p> <p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご本人やご家族、関係者が知りたい情報を提供し、利用者情報表も添えるようにしている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>記録物の管理や、他者の前でプライベートな内容は、話題にならない様に配慮している。利用者一人一人に対して、自尊心を傷付けるような声掛け、対応をしないように心掛けている。</p>	○	<p>訪室時は必ずドアをノックしてから入るように心掛けている。掃除やリネン交換時は必ず利用者に説明をし、許可を頂くようにしている。</p>
<p>51</p> <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員側で決めた事を、押し付けるような事はせず、飲みたい物や食べたいメニューを利用者に決めて頂くようにしている。</p>	○	<p>今後も利用者に合わせて声掛けをしたり、意思表示が難しい人でも表情やしぐさで読みとるように、支援していきます。</p>
<p>52</p> <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者に任せているが、時には職員の業務が先にもなっている事もある。</p>	○	<p>ぬり絵や折り紙等利用者がしたい事を優先に、本人の希望にそった対応を声掛けています。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53</p> <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>月1回の訪問美容があり、ご家族・ご本人の希望に合わせてカット、パーマ、毛染めを行っている。洋服等は、殆どの利用者が自分で選んで着ています。</p>	○	<p>今後も継続していきます。</p>
<p>54</p> <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理、盛り付け、片付け等は本人の日常生活に応じて職員と共にしています。</p>	○	<p>今後も継続していきます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつは本人の様子や時間をみながら、楽しめるように支援している。タバコは現在吸う利用者は居ません。	○	お酒は行事(焼き肉、クリスマス)の時に希望があれば、少量ですが提供しています。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用して、トイレでの排泄を促しています。	○	布製の失禁パンツを利用して頂き、紙オムツを使わないように工夫しています。夜間は睡眠を妨げないように、心掛けながらも声掛け誘導を行っています。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	自分で入浴出来る利用者には、特に曜日、時間を決めずに希望にそって入って頂いてます。	○	入浴を拒む利用者には、言葉かけや対応を工夫して、職員の連携により入って頂けるように支援していきます。(同性介護)
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者自ら行動され、休息とられる際環境に配慮している。自己決定により、行動される方が多い。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	楽しみごとの準備は常にしている。強制的にならない様、日常の流れに添って対応している。	○	簡単な体操やレクを毎日行うことが出来るか、職員間で検討していく。アクティビティ研修会の参加等を検討してレベルアップをはかりたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の際の精算時等対応して戴いている。	○	限られた利用者ですが、ご家族、本人の希望でお金を自分で所持されている人もいます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	体調が優先になるが、その日の状況により同行しているスタッフの人数、業務により実施は難しい日もある。	○	季節や職員の体制の問題等で難しいが、職員間で話し合いをして短時間でも、外出する機会を増やしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族の協力を得て外出、外泊されている。近隣のファミリーレストランで昼食をする等、少しずつだが取り組んでいる。	○	地域、社会交流の場としての趣味サークル等の参加同行を考えている。利用者からの希望もある。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族からの希望により、電話をつなげられない方には、メモ書きを渡し電話番号と用件を記入して置き、ご家族にお伝えするとお話ししている。	○	まだ特定の利用者ではあるが、外出先で写したものを葉書にして送って下さいますので、本人に渡しています。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	馴染みの関係は出来ており、ゆっくりして戴けるような対応を心掛けている。	○	今後も継続していきます。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ケアの都度、指導されている。スタッフは認識しており、より良いケアに取り組もうとしている。	○	見守りを重視することで、身体拘束をしないケアを実践している。ユニット会議の中で、勉強していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関に鍵をかけていない事の認識は常にしている。人体検知センター音に反応するよう心掛けている。夜間のみ防犯上の問題から施錠している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室内で過ごされている場合は、身体の不調や状況を確認する為に、適度な間隔をおいてさりげなく訪室し、様子を把握しています。	○	玄関にセンサーを設置している為、利用者の出入りに関しては、直ぐ分かるようになっている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状態に応じてハサミや針箱等は、お部屋に置いて使用されています。ご本人に管理能力がある場合は、希望にそうようしています。	○	薬や洗剤等は施錠された薬品庫にて管理している。常時使用する洗剤等は利用者の危険を防ぐ為、目の届かない所に保管してその都度使用している。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	スタッフ同士の声掛け連携により、防止する様取り組んでいる。防火訓練等により指導されている。	○	これまでのひやりハット、事故報告書の事例等を基に、日常のカンファレンスの中で発生要因、改善策等を職員で検討し再発防止を心掛けています。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者の身体上の把握含め、緊急時の初期対応は、スタッフの集まりの際話し合い習得している。応急手当の訓練は定期的に行っている。	○	緊急時の連絡網、必要な物品(保険証、お金)等は、整理され職員も把握している。応急手当については、訪看の指導で定期的実施することを、検討している。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防計画にもとづいて定期的に、避難訓練を実施しています。職員は避難経路や消火器の場所は、把握しているが避難誘導の実践(車椅子等の利用者)は、回数を多く行っていかなければ難しい。	○	運営推進会議などを通じてお願いしていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時に管理者、介護支援専門員からご家族に説明をしている。また入居後も状態が変化した場合に、その都度説明させて頂き、ご家族にも状況を把握して頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	スタッフ同士の連携を密にし、早期発見に努めようとしている。医療機関とも連携が出来ているので、迅速な対応をしている。	○	新人職員には、利用者に関心を頂き表情や動作等で、体調の変化に気付くように今後も指導していく。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬のセット等は基本的に管理者が行なっている。複数の病院の薬を飲んでいる利用者もいる為、個々のファイルに説明書をいれてある。	○	身体的に飲み込みの悪い方は、医師と相談し薬剤の形態を飲み込みやすいようにしています。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	牛乳をすすめたり、薬の調整を医師の指示の下行っている。	○	薬に頼らず、自力排便ができるように、乳製品(ヤクルト、ヨーグルト)のおやつを増やしたり、散歩や階段の昇降等身体を動かす工夫を働きかけしていく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自立の方には声かけなどにより対応している。介助が必要な方には職員が支援している。	○	定期的に歯科の往診をお願いしている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	医師や訪看の指導のもと、職員同士が連携して摂取量等を把握している。	○	食事量の少ない人には、エンシュア等に対応している。体重の増減に注意している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防策を掲示している。使い捨てペーパータオルを活用している。	○	予防接種は利用者、職員全員実施している。ノロウイルス対策に気を使い、使い捨てグローブを利用し、その都度フタ付きの汚物容器に破棄している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	環境整備は食材担当者が中心になって行っている。利用者所有も含め、衛生管理に努めている。冷蔵庫内は、曜日を決めて掃除をしている。	○	まな板、ふきん等は毎晩漂白をしている。食事の作り置きはしないように、徹底している。今後も継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花を中心に園芸で楽しんで載っている。	○	玄関前の活用を検討しているが、実行までには至っていない。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の写真スペースがあり、時折眺めておられる姿がみられる。	○	季節、時期に応じた飾り付けを心掛けている。(利用者の手作りの作品も含めて)。今後も継続していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳のスペースなどもあり、思い思いに過ごしている。	○	廊下に椅子やテーブルを配置して、気の合った利用者同士がおしゃべり出来る場所を作っていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人が使い慣れたものがあり、居心地良く過ごされている。		利用者の中には荷物が多く雑然として見えるが、本人はその空間で満足されている為、無理に片付け等は働き掛けていない。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空調装置などにより行っている。		空気の入れ替えを行っているが、冬期の乾燥防止対策に苦慮している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	車椅子対応のトイレや洗面所になっており、安全かつ自立の生活を送れるよう工夫している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自室の場所が分かるように入口前に名前、写真の入った表札を掛けている。トイレには、目印に花を飾っている。	○	個人のタンスには、パンツや靴下等のシールを貼り、自分で整理したり、着用出来るようにしている。コーヒーカップや湯呑み等は、自分のがわかるように別々な物に我慢していく。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇などがあり、花や植物を植えている。	○	ホームの裏に畑があり、野菜を植えているが、なかなか活用出来ていないので、利用者、ご家族にも協力して頂いて工夫していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者            ✓②利用者の2/3くらい            ③利用者の1/3くらい            ④ほとんど掴んでいない</p> <p>利用者の認知症の重度化等で、ケアが一部の利用者に偏っている部分がある。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある            ✓②数日に1回程度ある            ③たまにある            ④ほとんどない</p> <p>全介助の利用者がいますので、ゆったり過ごすことが難しいのが現状ですが、時々一緒にお茶を飲むなどの機会をつくっている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>✓①ほぼ全ての利用者            ②利用者の2/3くらい            ③利用者の1/3くらい            ④ほとんどいない</p> <p>思い思いに暮らしている。介助が必要な方にも、意向を伺いながら行っている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者            ✓②利用者の2/3くらい            ③利用者の1/3くらい            ④ほとんどいない</p> <p>のんびり穏やかに過ごされています。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者            ②利用者の2/3くらい            ✓③利用者の1/3くらい            ④ほとんどいない</p> <p>ご家族に協力して頂いている。冬場は積雪のため困難だが、夏場は出かけている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>✓①ほぼ全ての利用者            ②利用者の2/3くらい            ③利用者の1/3くらい            ④ほとんどいない</p> <p>週1回の医師による往診、訪問看護ステーションの看護師との連携により充実している。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>✓①ほぼ全ての利用者            ②利用者の2/3くらい            ③利用者の1/3くらい            ④ほとんどいない</p> <p>職員が連携していくことにより、安心して暮らせていると思う。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族            ✓②家族の2/3くらい            ③家族の1/3くらい            ④ほとんどできていない</p> <p>管理者や介護支援専門員は積極的に対応しています。また職員も節度をもって対応しています。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように            ②数日に1回程度            ✓③たまに            ④ほとんどない</p> <p>不定期ではあるが、ボランティアさんが来ている。</p>



97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大いに増えている</li> <li>✓②少しずつ増えている</li> <li>③あまり増えていない</li> <li>④全くいない</li> </ul>	徐々にではあるが、当ホームでの取り組みなどが理解されつつあると思う。
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての職員が</li> <li>✓②職員の2/3くらいが</li> <li>③職員の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	職員の退職などがあり、信頼関係を築くのが課題となっています。今後はユニット会議などを活用して、チームワークづくりを心掛けます。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者が</li> <li>✓②利用者の2/3くらいが</li> <li>③利用者の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	何かあれば、職員は利用者のお話を聞くよう努めているが、本音を聞くことは難しいです。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族等が</li> <li>✓②家族等の2/3くらいが</li> <li>③家族等の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>	面会時やケアプランの見直しの際に、職員側から近況報告をしています。その際に、要望等をお聞きするようにしています。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

利用者は自分で出来る事は自分でしたいという強い意識をもたれている方が多いです。散歩・買い物などの外出する機会を増やす工夫を運営者、管理者も含めた職員で検討していきます。職員は利用者の思いを真摯に受け止め、自立を妨げないケアを実践していきます。利用者の楽しみを増やしていくために、アクティビティ研修会などに積極的に参加していきます。これまで、不完全だったケアプラン(アセスメントを含めた)の重要性を各スタッフ認識し、一連のケアマネジメントの流れを把握出来る様になりつつある。